

# 市議会だより

- 記事内容 ●12月定例会から……………P 2 ●常任委員会……………P 8～P 9  
 ●一般質問……………P 3～P 6 ●賛否一覧表・討論……………P 9  
 ●議案質疑……………P 7 ●請願等・編集後記……………P 10  
 ●予算特別委員会……………P 7



～男鹿から東北に力を！～

## 出初式

出初式  
 今年一年が、市民の皆様にとりまして希望に満ちた年になりますように、心より祈念して新春を迎えるの挨拶いたします。

明るい兆しが見えてきた日本経済にあつて、幾多の課題を抱えている本市ではありますが、地域における課題は、地域自らがその解決に取り組んでいくという姿勢が必要であります。人口減少の中にあつても、地域の支え合い等により、地域社会の活性化につなげていくための諸施策の実施が不可欠であり、市当局と議会が丸となつて、これまで以上に全力を挙げて取り組まなければならぬものと考えております。

明るい兆しが見えてきた日本経済にあつて、幾多の課題を抱えている本市ではありますが、地域における課題は、地域自らがその解決に取り組んでいくという姿勢が必要であります。人口減少の中にあつても、地域の支え合い等により、地域社会の活性化につなげていくための諸施策の実施が不可欠であり、市当局と議会が丸となつて、これまで以上に全力を挙げて取り組まなければならぬものと考えております。

さて市では、昨年「なまはげ館」のリニューアル、「海フェスタおが」の開催や「秋田デスティネーションキャンペーン」など、男鹿観光をアピールするイベント等が数多く開催されました。こうしたイベント等によって、男鹿に向けられた視線を、さらに広げていけるよう、積極果敢に取り組んでいかなければなりません。

とともに、日頃から市議会及び市政に対し、ご理解、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。



新年おめでと  
 うございます。  
 市民の皆様には、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

新春を迎えて  
 男鹿市議会議長 吉田 清孝

12月  
定例会～五里合小・鶴木小統合～  
野石小 船川南小  
平成27年4月を目指す！

平成25年12月定例会は、12月5日に招集され、19日までの15日間の会期で開かれました。この定例会では、男鹿市手数料条例及び男鹿市市税条例の一部改正など、33議案が市長から提案され、審議の結果、全て可決されたほか「PP交渉に関する請願」を採択としました。

また、最終日には、人権擁護委員の推薦について異議なしとするともに、議案6件を可決し閉会しました。

## ●小学校の統合について

現在、五里合小学校の2年生と3年生、鶴木小学校の2年生と3年生が複式学級となっており、野石小学校では、平成26年度に2年生と3年生の複式学級が発生します。これを解消するため、3校の統合を進めてきました。五里合小学校と鶴木小学校は、平成26年4月の統合が決定し、野石小学校は、平成27年4月の統合を目指しています。

また、船川南小学校においても、3年生と4年生が複式学級となっており、現状では、平成27年度に2年生と3年生及び5年生と6年生の複式学級が発生することから、平成27年4月に船川第一小学校との統合を目指しています。

## ●ホテル帝水の状況について

ホテル帝水は、11月末をもって閉館しています。これに伴い、正社員、パート従業員

の計41人のうち、残務整理に当たる5人を除く36人は、11月30日付けで解雇されたとなっています。

## ●男鹿テクノについて

10月2日、JX日鉱日石エネルギー株式会社は、船川事業所の潤滑油製造事業を平成26年3月末で停止すると発表しました。これにより、子会社である男鹿テクノ株式会社では、従業員17人のうち6人程度を残して、グループ内で配置転換されると伺っています。

## ●「海フェスタおが」の経済波及効果について

秋田経済研究所が算出した宿泊費等による経済効果は、全体で51億8500万円、男鹿市では観光客による宿泊費、交通費、土産物、飲食などによる効果を合わせて、19億5000万円と推計しています。

## 審議日程

12月5日	本会議（議案上程）
9日	本会議（一般質問）
10日	本会議（一般質問）
11日	本会議（議案質疑）
12日	予算特別委員会
13日	常任委員会・分科会
16日	常任委員会・分科会 予算特別委員会
19日	議会運営委員会 本会議（表決）

## 〈条例〉

- 男鹿市職員の再任用に関する条例の制定
- 男鹿市行政財産使用料徴収条例の一部改正
- 男鹿市手数料条例及び男鹿市市税条例の一部改正
- 男鹿市斎場条例の一部改正
- 男鹿みなと市民病院使用料及び手数料徴収条例の一部改正

- 男鹿市中小企業振興資金融資あっせんに関する条例の一部改正
- 男鹿市水道事業給水条例の一部改正

- 男鹿市一般ガス供給条例及び男鹿市簡易ガス供給条例の一部改正 他14件

## 〈補正予算〉

- 一般会計予算（第6号）
- 介護保険特別会計予算（第2号）
- みなと市民病院事業会計予算（第1号）
- 上水道事業会計予算（第1号） 他7件

## 〈その他〉

- 人権擁護委員の推薦 伊藤幸子（五里合）

## 〈議員提出議案〉

- 意見書6件

## 可決した主な議案



米谷 勝 議員

男鹿中滝川地区、船越新地地区  
雨水対策について

**質** 滝川河川改修工事の早期完成を図るため、防衛省とどの様な協議をされているか伺います。

**答** 杉下橋から上流の護岸工について平成26年度、27年度事業で、男鹿石を活用した護岸工265メートルを含めた、杉下地区内の375メートルの完成を図ることをしています。

**質** 滝川地区の農地も冠水被害を受けており、農地、水路に支障をきたしている。道路排水は道路で処理できないものか伺います。

**答** 県道入道崎寒風山線の道路排水は、これまでの経緯を踏まえながら関係者と協議し、県に要望してまいります。

**質** 船越第5排水区新地地区の排水不良箇所は、被害を見て、どのような対策を考えているのか伺います。

**答** 冠水の原因となる所が2カ所ほど見受けられています。詳細な調査をした上で、実施に向けて検討してまいります。

温浴ランド周辺の資源を  
活用した振興策について

**質** 温浴ランドおが周辺の広大な土地を利用してグラウンドゴルフ場を建設し、温泉と一体利用する計画をもてないか伺います。

**答** すでに市内に3カ所の整備を行っている「マリナーパーク・憩いの広場」をグラウンドゴルフの中心施設として活用し、各種大会の誘致を図ってまいります。

観光地男鹿市の  
おもてなしについて

**質** 観光地男鹿市のおもてなしの心が感じられる環境整備の対応について、どのように考えているか伺います。

**答** 道路の案内標識は、来年度以降80カ所。案内板の整備は、36カ所ほど来年度予定しています。若美総合体育館、野球場利用者への案内標識設置について、大会参加者の移動がスムーズになるような標識をつくってまいります。

福祉灯油購入費助成について

**質** 5年前の灯油が67円台の時代に実施していた、福祉灯油購入費助成事業を1リットル105円になった今、男鹿市でも実施すべきと思うが、所見を伺います。

**答** 国・県の動向を注視して検討してまいります。

【その他の質問】

- 公共事業による雇用拡大について
- 水産業振興について
- 除雪対策について



安田健次郎 議員

農業問題について

**質** 国はTPP参加を前提として、農業基盤の地ならしを強め、減反廃止や所得交付金の半減を公表した。10アール当たり7500円の市の減収額はいくらになるのか。今度こそ農業施策の強化が待ったなしと考える。雇用創出できる6次産業や法人化、または重点作物の産地化や年中出荷形態農業産直等々、総合的な振興策を市長は本腰を入れる考えはないのか。

**答** 米の直接支払交付金は約1億8300万円の減収となります。農業施策については、JAの園芸メカ団地育成事業などに支援してまいります。

中学生の医療費無料化を

**質** 人口増対策としての大きな課題は、若者の職場の確保が重要だが、もう一つは子育て支援も大切であり、特に医療費の補助が強く求められている。現在、本市も含め小学生までは、県内ほとんどで実施されており、中学生も10市町村で実施されている。本市でも中学生までの医療費無料化を実施すべきと思うが、市長の考え方を伺います。

福祉問題について

**答** 子育て支援は医療費無料化だけでなく、子育て応援米支給事業など、様々な支援策の組み合わせにより効果が得られると考えており、医療費の中学生までの助成拡大は困難であります。

**質** 私たちは今、全市民対象の「くらしのアンケート」を実施しているが、現段階では年金や介護、国保などへの不安や要望が多く出されている。介護保険では保険料の引き下げや、利用料への支援・補助などのお願いと、特に要支援1・2の方々が保険から外され、自治体任せになることでサービスを受けることができないなどの不安もある。介護保険料や利用料の引き下げを実施するつもりはないのか。また、国保税は税金の中でも一番高く滞納者も多いと聞いており、国保税を何として引き下げたいとの意見が多くある。市として引き下げを実施すべきと思うかがか。

**答** 利用料は、介護サービス費用のうち9割が介護保険から給付され、残りの1割が利用者負担とされており、市からの支援は困難です。要支援者対応は、現段階では、訪問介護と通所介護について、平成29年度末までに市町村が行う新たな総合事業に移行することとされていますが、サービス低下を招かないよう十分配慮します。国保財政は税の負担により運営していくべきものであり、税の引き下げは困難です。





小松 穂積 議員

平成26年度の

主なる施策について

**質** 男鹿市総合計画後期基本計画に掲げている施策をどう進めていけるか。

**答** 産業振興の重点施策として、観光ではスポーツ大会、合宿、教育旅行の誘致とともに、平成26年度開催の国民文化祭、種苗交換会、アフターデスティネーションキャンペーン、平成27年4月の全国椿サミットで誘客を働きかけます。農林水産業の振興では、木質バイオマス発電の導入検討、地場産業の振興とともに、太陽光や風力など再生可能エネルギーによる発電事業を後押しし、地元からの雇用の働きかけをしていきます。インフラ整備として、道路整備は社会資本整備総合交付金等で、漁港整備は漁村再生交付金事業や漁港施設機能強化事業により整備を予定しています。公共下水道事業は進捗率82%となっており、脇本浦田、船川港女川及び福米沢に続き、樽沢・百川地区を計画しています。今後、生活排水処理基本計画を見直し、変更となる地区へは

浄化槽の普及に努めていきます。  
**質** 買い物弱者への対応として福祉タクシー券を発行出来ないか。

**答** 各地区民生児童委員協議会で情報収集した中では、週末に家族が帰宅しての買い物や、地域での協力支援、移動販売車の利用、生協からの共同購入などにより対応されており、福祉タクシー券については考えていないものです。

**質** 市を挙げて観光を叫んでいる割には効果が見えないが。

**答** 観光による経済効果を上げるのは民間企業で、色々な催しに積極的に参加するよう促しています。諸団体との連携については、市観光協会、商工会、男鹿温泉郷協同組合などの長による、男鹿市地域活性化懇談会を毎月開催し、意見交換会を行っています。

学校統合について

**質** 教育委員会の考え方は教育厚生委員会と伺っているが、市長の考え方はどうか。

**答** 小学校の統合については一定規模の集団の中で、子供たちがお互いに高め合いながら学び、成長できるように、複式学級の解消を図ることを最優先すべきと考えています。また、地域にも統合の影響は大きいことから、校舎の活用も含めて、地域の活性化を常に考えながら、地域住民と知恵を出し合っていきたいと考えています。



船木 正博 議員

除雪機の有効活用について

**質** 貸出用小型除雪機の利用が少なく宝の持ち腐れになっていくように思えます。もっと市民に周知徹底を図り有効活用すべきです。昨年度の使用状況と周知方法、今年度の取り組み方について伺います。

**答** 昨年度の貸出回数15回で若干少ない気がします。周知方法は市政懇談会で事業を説明し、市内全町内会長へ文書でも通知したほか、広報おがにも掲載しました。今年度は市ホームページへも掲載するほか、よりよい周知方法を検討させていただきます。

船越地区の津波対策について

**質** 船越地区には高い山が無く、住民は津波に巻き込まれやすい状況にあることから、距離的な配置を考えて、所要所に避難用の高台や高所ビルを建て、海岸沿いには津波防波堤を設置すること、人命尊重の観点から切望します。

**答** 避難場所まで遠いところの対策として、地元自主防災組織の方々と相談しています。防波堤等の整備については、津波対策として有効な保安林の整備を、所有者である秋田県と相談しながら進めていきたいと考えています。

船川地区の災害避難道路の現状

**質** サンワーク男鹿は災害時通信拠点になっていますが、市役所からサンワークに至るまでの道路状況をどう見ているのか。災害時緊急避難道路として見直し、整備する必要があると考えますが、市長の見解を伺います。

**答** 現状では、通信拠点を確保するための消防及び警察の広報車等の通行には支障がないものと判断しています。また、道路状況については、道路管理者として十分な確認をしていますが、再度調査させていただきたいと思えます。

市長の政治姿勢について

**質** 民間支援について。

**答** 行政の役割は、積極的に取り組んでいる民間の方々の後押しをすることであると認識しています。

**質** デスティネーションキャンペーン後の門前地区の観光振興は。

**答** 西海岸は男鹿観光の目玉の一つであり、デスティネーションキャンペーン終了後も門前地区、五社堂への誘客に努めます。

**質** 意見の共有化について。

**答** 全ての共有化は難しく、優先順位を付けて施策に反映しています。

**質** 総合観光案内所の道の駅化は。

**答** 登録要件を満たすための諸費用が多額となり、現時点では道の駅登録は厳しいと認識しています。



佐藤 巳次郎 議員

若者定住対策と  
高齢者支援について

**質** 4月1日現在の年少人口（14歳以下）は2540人ですが、2040年の推計人口は966人となっております。早急な対策が必要ではないか。

**答** 様々な施策事業の相乗効果により「教育と子育てなら男鹿で」と言われるよう努めます。出産祝金の支給基準について伺います。

**質** 第3子以降の新生児を出産した方に新生児一人に対し10万円を支給しています。保育料の軽減と24時間保育を実施すべきではないか。

**答** 戸籍上第3子以降の保育料は無料としています。また、24時間保育は、既存保育園に夜間保育園を併設することになりますが、専用の保育室や沐浴室等の設備が必要となるほか、夜間勤務する保育士の確保等が課題であるため、今後研究してまいります。

**質** 学校給食費への支援の現状について伺います。

**答** 50%減農薬のエコ米を提供し、通常の給食用米との差額を補ってんしています。

**質** 中学生までの医療費無料化をぜひ実現すべきではないか。

**答** 助成拡大は困難です。

**質** 高校生への通学費の支援が必要ではないか。

**答** 通学費の支援はしていませんが、市独自の奨学資金貸与制度を実施しています。

**質** 商工会等と連携し、各事業所職員の非正規職員（社員）を正規職員（社員）にするための支援を考えるべきではないか。

**答** 就業する上で有利となる資格の取得に必要な経費の一部を助成しています。

**質** 秋田市の100円コインバスは、対象年齢を68歳以上に拡大し、市民から大変喜ばれ、昨年度は延べ133万5000人が利用している。本市では、来年度に向け公共交通総合連携計画を策定中であるが、買い物や通院のための循環バスをぜひ実現すべきと考えるがどうか。

**答** 質問の事例は人口集中地域で点在している本市では地形的に適しておらず、新たな計画にコインバスの実施は想定していません。また、路線バスが運行してない船川本町地区について、新たな交通手段の導入は困難です。

**【その他の質問】**  
●福祉灯油等への助成について  
●除排雪対策について  
●住宅リフォーム助成事業継続について



佐藤 誠 議員

国定公園の管理について

**質** 観光重視の男鹿市なのに、草木が邪魔をして、すばらしい景観を見せられないという声が多い。国定公園であるが故に適用される自然公園法も関連するようですが、そもそも国定公園に指定された昭和48年当時、男鹿半島の何が評価されて指定されたのか伺います。

**答** 男鹿は西海岸一帯の奇岩怪石の立ち並ぶ絶壁と島々の男性的な景観、芝生で覆われた寒風山、詩情漂う八望台、入道崎の眺望等、自然景観のほか、民俗行事、風俗史跡、伝統等各種資源が豊富なことで、国定公園に指定されたものです。

**質** 自然公園法では、国定公園は県が管理することになっているが、県の管理計画はあるのか。また、公園の管理計画は市が申請し、県が許可すると聞いているが、市は県に申請しているか伺います。

**答** 県では、管理計画は策定してないのと伺っており、市でも管理計画は申請していません。支障木の伐採や草刈りなど、許可を

要しない行為でも、県からは事前に土地所有者、自然保護団体などとの合意形成を図り、報告の上、実施するよう求められています。

**質** 昔は人によって守られていた自然が社会の変化により、手入れの必要性を認めるように自然保護法も変わってきた。市としての積極的な管理計画を県に提言し、市民も男鹿の景観を守れるよう、管理計画を示すべきではないか。

**答** 市としても独自の景観保全とともに、観光面も考えながら、この計画策定が必要と考えています。今後、土地所有者等と協議しながら、進めたいと考えています。

**質** 市内経済の成長戦略について  
交流人口から定住人口につながるというイベント等の定住効果はどうか。また、船川港の発展が市全体に波及するというのが、大胆な政策が必要ではないか。

**答** 交流人口による定住人口増加の効果には時間を要します。少しでも社会減を縮小するよう取り組みます。船川港は港の活用を働きかけ、貨物取扱実績を上げながら、活性化を目指していきます。

**質** 都会からの移住促進政策が必要ではないか。

**答** 県も移住促進協議会を設置します。今後、県と市町村、関連団体が連携協力し、総合的に体制整備や情報発信を行います。市でも特色をPRしていきます。



土井 文彦 議員

## 子育て支援情報の発信について

**質** 子育て支援情報の発信方法を伺います。

**答** 子育てハンドブックを配布して、対象世帯すべてに情報提供しています。その他、ホームページへの掲載や広報おがで周知しています。

**質** 子育て環境日本一を目指す厚木市を参考に、チラシや電子書籍等の情報発信で「困った」が「ワクワク」に変わる子育て支援を明確にしながら「男鹿市に住んでよかった！」となるような施策の検討はされているか伺います。

**答** 子育てハンドブックは、ビジネスユアル面も含めて工夫の余地があります。電子書籍は、県内でも既に実施した地方公共団体もあることから、男鹿市でも検討したいと考えています。

## 洋式トイレ設置の必要性

**質** 市民文化会館等の各施設、特に公民館のトイレの現状と、ご年配の膝や腰に痛みがある方は、



和式トイレだと使用できない状況であるが、把握されているか伺います。

**答** 市民文化会館と中央公民館は、すべて洋式化され、船川港公民館、船越公民館等のトイレ合わせて67個中30個が洋式トイレとなっています。地域の文化祭行事など、高齢者の利用機会も多く、これまで利用者配慮した洋式化を進めてきたところです。

**質** 各公民館の設置調査をしたところ、船越公民館の洋式化率は30%、脇本公民館は44%、B&G体育館は0%、その他の公民館は、洋式化率50%以上であった。考察すべきは洋式化の不等等さである。この不等等さはなぜ起き、これからどう解消するのか伺います。

**答** 利用者の状況を勘案しながら進めてきましたが、そういった経緯の中で不等等さという部分があるかと思えます。B&Gは、体育館ということで答弁では触れませんが、利用者が気持ちよく使っていたり、配慮をしながら整備を進めてまいります。

## 【その他の質問】

- 昇降階段の手すりの必要性  
文化会館や公民館の昇降階段に、安全面から手すりが必要！
- ICT研修会の開催について  
ICTとはどんなものかを知る！
- フェイスブック活用について  
市民と双方方向の情報交流が必要！



高野 寛志 議員

## 里山資本主義について

**質** 里山資本主義は、マネー資本主義やグローバル資本主義に対するアンチテーゼとして位置づけられており、過疎地や山間部での木質バイオマス発電や木材を使うエコストーブなどによる、ささやかな地方からのエネルギー革命と発想の転換を目指すものです。石油などの化石燃料と違い、木材は再生可能なエネルギー源であり、最近では新しい集材材「CLT」が開発され、高層建築にも利用が可能となり、ヨーロッパ諸国でも普及が進んでいるそうです。本市では、太陽光発電や風力発電が新設され、自然エネルギーの開発が進行中ですが、それらに加え木質バイオマス発電や小水力発電、木材エコストーブの開発・普及などの再生可能なエネルギーへの取り組みを進めるべきであると思うが、市当局の考え方を伺います。

**答** 木質バイオマス発電は、林業の振興と間伐材の活用が図られ、雇用の確保と環境保全に資することから導入を検討しており、

大学教授や木材業者からおいでいただき、講演会を開催しています。身近な資源を有効に活用する再生可能エネルギー事業の導入については、今後とも積極的に取り組めます。また、里山資本主義の考え方は、お金に換算できない地域資源の活用と、風土に根差した生活意識の再発見です。本市は「教育・観光・環境」を大きなテーマとしており様々な事例を参考とし、考え方を取り入れてまいります。

## 船川商店街地域のまちづくりについて

**質** 船川商店街地区を、今後住宅地として活用するとともに、高齢化時代に対応した、歩いて買物や会話のできるまちで、ひとり暮らしや高齢者向けの共同住宅などを建設し、隣近所で助け合って生きていくことのできるまちにすべきと思うが、市当局では船川地区の市街地を、今後どのように活用すべきと考えているのか伺います。

**答** 平成23年度に秋田県緊急雇用創出臨時対策基金事業を活用し実施した、空き店舗等調査事業によると、同商店街には42軒の空き店舗があり、そのうち11軒に賃貸意思があるとの結果が出ています。市としては、船川商店街の枠組みを大切にしながら、地域の活力を求める民間の取り組みを後押ししていきます。



# 議案 質疑

## 市職員の再任用について

**質疑** ①若者の雇用の場の確保が重要課題となっている中で、市職員の定年後の再任用にどう対応するのか。②再任用制度に何を期待しているのか。また、どのような効果をもたらそうとしているのか。③運用上の問題点として、希望者全員が職務に就けるのか伺います。

**答** ①高年齢者雇用安定法が改正され、厚生年金の支給開始年齢が、平成18年4月から段階的に引き上げられたほか、平成25年4月1日からは65歳までの雇用の延長が義務付けられたことに伴い、再任用制度に関する条例を提案したものです。再任用される職員の活用方法や、現在雇用している若い方々をどのようにしていくかということについては、現在検討しているところです。②行政改革によつて職員数が減少している中で、職員が必要な知識を得るため、

多量の時間を費やしていることもあり、これらを早急に解消していくためにも、再任用される方々がこれまで培ったノウハウを基に、若い職員への指導等を行うことが期待できると考えています。③退職者は、平成27年度15人、28年度13人、29年度20人で、この方々が全員再任用を希望した場合の対応については課題もありますが、今後検討してまいります。

**諸証明手数料**  
150円から200円に

**質疑** ①諸証明手数料を引き上げる理由は何か。②50円引き上げることで、年間どの程度収入が増えるのか。③市町合併協議の中で「サービスは高い方へ、負担は低い方へ」ということで合意した経緯があるが、決定した協定項目を簡単に変えるのか。

**答** ①県内他市の状況等と比較検討して、均衡のとれた額に改定したい。県内他市では、ほとんどが200円であり、それに合わせる形で見直しするものです。②増収見込みについては、平成24年度の収入実績で試算すると約152万5000円の増収が見込まれます。③市町合併から9年目を迎えており、今般策定する第3次行政改革にあわせて見直しを行いたい考えです。

# 予算特別 委員会

今定例会において、全議員で構成する予算特別委員会に付託された、一般会計補正予算等について審査し、いずれも全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

一般会計補正予算の質疑された中から主なものを取り上げ、その要旨を掲載しました。

## 「道の駅化」について

**質疑** 総合観光案内所の「道の駅化」に対する考え方に伺っています。

**答** 総合観光案内所を道の駅登録することで、観光客数を増加させることは厳しいと考えています。何よりも同施設での情報発信機能のさらなる充実を図るとともに、隣接の太陽光発電所を教育的施設としての活用を図ってまいります。また、観光政策には様々な視点があります。どこに力を入れるか、他自治体とは違った角度から男鹿市を売り出したいと考えています。確かに道の駅も一つの手法ですが、それ以外にも観光客を迎える手法はいろいろあり、全体のバランスの中では、まずは総合観光案内所の「道の駅化」よりも、他の施策で観光の充実を図ることが現段階での市の方向性です。

## 福祉灯油の実施を!

**質疑** 福祉灯油に係る県と市町村との意見交換会の結果と今後の対応について伺います。

**答** 福祉灯油購入費助成については、12月11日に県と市の担当者による意見交換会が開催され、県では現在のところは白紙であるとの回答でした。市としても県と歩調を合わせ実施したい旨、強く要望していますが、県では意見交換会での内容を踏まえ、国に対し特別交付税措置を要望するとのことであり、その結果を見ながら対応します。

## 小学校の統合について

**質疑** ①改めて確認しますが五里合・鶴木・野石小学校については、当初から平成26年4月に3校での統合を目指して進めていたものか伺います。②船川第一・船川南小学校の統合について、平成26年4月

1日を断念した経緯等について伺います。

**答** ①3校の共通点は少子化傾向にあるほか、これまでも修学旅行やスポ少の活動等を合同で行ってきた経緯があります。その意味では、3校同時に統合することが、児童にとつてもベストな形であると考え、各校それぞれの保護者や地域住民と協議を重ねてきました。結果として、五里合・鶴木小学校については合意をいただきましたが、野石小学校については、保護者が実施したアンケート結果等々の動きを踏まえて、3校同時の統合には合意をいただけなかったものです。

②2校の統合については、船川南小学校保護者に対しては、平成25年度に入り、PTA役員を中心として複数回協議を行ってきました。そこで教育委員会との意思疎通を図った上で、保護者説明会を10月に開催しましたが、その段階では同小学校保護者としては、船川第一小学校校舎への統合には、賛成の意思はないということでした。この後も引き続き複式学級の早期解消を図るため、改めて保護者に対して説明する機会を継続的に持ちながら、平成27年4月1日の統合に向けて説明会を開催してまいります。

# 委員会・分科会の動き

各常任委員会・分科会は、付託議案等と所管の予算案を審査し付託議案等については、原案のとおり可決・採択すべきものと決しました。

質疑のあった主な事項は、次のとおりです。

## 総務

**質疑** 公共交通総合連携計画のたたき案が示されたが、この計画に対する考え方と、来年度は、どのような作業をするのか伺います。

**答** 計画案作成については、委託業者に対して、本市の公共交通に関する様々なデータや前回計画策定時の資料等を提供した上で検討され、作成されたものです。主な内容として、北部の戸賀・北浦地区における昼間のデマンド輸送の実験運行と、もう一つは男鹿中、北磯、戸賀・加茂、五里合地区のスクールバスと路線バスが並行運行している路線を統合するというものです。来年度、デマンド輸送に関しては、北浦市民センターを乗

継拠点として整備する検討も含めた準備作業を進め、スクールバスと路線バスの統合については、教育委員会との協議を進めます。

**意見** この計画案で進めるとすれば、現状より費用が増えることとなる。費用の増加を抑え、市民に喜ばれる、より良い計画にすべく、さらに検討を重ねていくべきである。

**質疑** 第3次行政改革(素案)について、横軸の連携強化はどのように反映されているのか伺います。

**答** 大きな点としては、教育委員会の本庁舎移転と考えています。市では現在「教育・観光・環境が豊かな文化都市」を目指して各施策事業を実施しています。関係各課との連携事業が多くなっており、教育委員会と市長部局との協議や打ち合わせなども必要となっています。教育委員会の本庁舎移転により連携が強化され、移動時間ロスの解消などにもつながり、より効率的・効果的な事業執行ができるものと考えています。

## 教育厚生

**質疑** 野石小学校の統合に向けた今後の対応と、複式学級発生に伴う教員配置の支援の可能性について伺います。

**答** この後、保護者などで構成する統合準備委員会の設置を予定していますが、五里合小学校と鵜木小学校の関係者だけではなく、野石小学校関係者にも同委員会への参加を強く要請しています。特に総務部会では校名・校歌・校章に関する重要な協議を行う予定とすることから、野石地区住民にも十分配慮する形でご意見を伺い、3校にとつて思いのこもった校名・校歌・校章となるよう準備を進めます。また、野石小学校では、来年度から複式学級が1学級発生することが想定され、教育効果の低下が懸念されます。教員の配置は困難ですが、教員免許を所有する学校支援員を配置するなど、児童の学習環境に配慮してまいります。

**質疑** 第3次行政改革(素案)

に盛り込まれている「家庭系ごみ処理手数料の有料化」は、税の二重取りで低所得者にとっては非常に負担の重い施策と考えるかどうか。

**答** 有料化については、家庭系ごみの排出量削減のほか、負担の公平性などの観点から有料化に取り組んでまいりたい考えです。なお、子育てや介護支援として、紙おむつが必要な乳幼児や高齢者を抱える世帯に対しては、無料でごみ袋の提供を行っている自治体もあることから、それらを参考にしながら検討したいと考えています。

## 所管報告

市当局から、男鹿中間口字上中神地内からの油流出について、国の補助制度を利用して油の封鎖工事を行った他、自治体の例を調べたところ、完全に油の漏出を止めることは難しいとのことでした。また、補助制度を利用して油や汚染土壌の処理経費など、補助対象外となる経費が多額になると見込まれることから、封鎖工事については、国に対し支援の要望はしないと判断したものです。今後の対応としては、来年度、市単独で油水分離ピットを新たに設置す

## 産業建設

**質疑** 木質バイオマス利用調査業務の調査内容について、また、市内の森林だけで発電事業の材料は賄いきれないと思うが、他にどこから集めるのか伺います。

**答** 調査内容は、山林から出る資源量や発電用プラントの規模、環境問題等です。出力5千キロワット程度の本質バイオマス発電を想定した場合、必要とされる年間10万立方メートルの材料の確保には市内の森林だけでは困難で、近隣の森林組合をはじめ、仙北地方の林材取扱業者等から協力いただけるよう準備会を設立し情報を集めたい。また、県内での発電事業は2、3カ所程度が限度と思われるので、早急に予算措置し、発電事業実施の可能性も含め、一日も早く調査したいと考えています。

**質疑** 5年後の減反廃止をはじめ、国の農政が大幅に変わ



ろうとしている時代に合わせた農業振興策に予算を投下すべきと思うが、行政改革素案ではそういう考えが示されていない。今までやってきたことを来年度も踏襲する考えなのか伺います。

**答** 農政の大転換を図るということで、国では「農林水産業・地域の活力創造プラン」を推進するようですが、これまで市では転作団地化、新規需要米の支援を進めてきました。新たな方針、事業展開の詳細を国が示した時点で、市の対応を検討し農業振興につなげていきます。

**質疑** 総合観光案内所への地場産品販売センター設置について、議会側から強い要請をしているが、市当局では特産品の開発が先という考えのようだ。特産品が揃った段階では地場産品の販売施設を設置するのかが伺います。

**答** 総合観光案内所地内に直売所を設置した場合の出店希望者調査で、希望者はいなかったものです。希望者があれば十分可能性があると思いますが、出店意欲のある方がいないのが現状であります。

議案第79号 男鹿市手数料条例及び男鹿市市税条例の一部を改正する条例について

賛 否 一 覧 表 (平成25年12月定例会)

会派・議員名	心 政 会			政 和 会				政友会		日 本 公 明 党		共 産 党 市 民 の 会		議 決 結 果					
	畠山富勝	三浦桂寿	佐藤誠	笹川圭光	中田敏彦	土井文彦	船木正博	三浦利通	船橋金弘	中田謙三	小松穂積	戸部幸晴	古仲清紀		高野寛志	佐藤巳次郎	安田健次郎	米谷勝	蓬田信昭
議案番号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	可 決

※吉田清孝議長は採決に加わりません。

(○：賛成 ×：反対)

※採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他の案件については、全会一致で可決されました。

◆議案第79号  
男鹿市手数料条例及び男鹿市市税条例の一部を改正する条例に対する討論

反対討論 安田健次郎議員

本条例の一部改正は、諸証明手数料の主なものを150円から200円に引き上げるものだが、第一に約34%の引上率は、低所得者層などにとっては重い負担となる。何よりも引き上げによる収入増は年間約153万円であり、現状の市財政は将来的には別としても、財政調整基金が約11億円であることから、引き上げは必要ないと考える。第二に合併時には「サービスは高い方へ、負担は軽い方へ」との約束で決められた合意を反故にする行為には納得できない。このような手法で進めると、次はごみ処理手数料の有料化にもつながることが予想される。第三に提案理由の一つに「他市に合わせる」とあるが、まだ150円の自治体もある。また、例えば灯油購入費の補助などは市民に喜ばれるが、こうした引き上げの理由については、現状の市民生活からみると、反市民的理由であるとも考えられる。以上の理由から、本案については反対するものである。

議会の豆辞典 ⑫

●専決処分

議会が議決をしなければならぬ条例、予算などについて、時間的に議会の開催を待てない緊急の場合もあります。そのような時に市長が議会にかわって決断することを専決処分といいます。

また、専決処分には、このような場合のほか、軽易な事項等を議会が市長に専決処分事項として委任した場合もあります。前者の場合、次の議会での報告、承認が必要となりますが、後者は議会への報告だけで承認は不要です。

請願

● T P P 交渉に関する請願

採択

意見書

● 医療・介護などの社会保障の充実を求める意見書

● 年金の2.5%削減の実施の中止と撤回を求める意見書

● 介護職員の処遇改善を求める意見書

● 安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善・大幅増員を求める意見書

● T P P 交渉に関する意見書

● 日本国憲法をいかし、安定した雇用の実現を求める意見書

● 6件とも可決されたので、市議会の意見として、政府関係機関へ送付しました。

陳情

● 「原子爆弾被害者に対する援護に関する法律」改正を求める意見書採択についての陳情

● 日本国憲法をいかし、安定した雇用の実現を求める陳情

● 安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善・大幅増員を求める陳情書

● 介護職員の処遇改善を求める陳情書

● 医療・介護などの社会保障の充実を国に求める意見書提出を要請する陳情書

● 年金の2.5%削減の実施の中止と撤回を求める陳情書

● 2014年度地方財政の確立に関する要請

● 平成25年度及び平成26年度理科教育設備整備補助予算についてのお願

◆ 議会人事 ◆

◎ 議会広報特別委員会委員

古 仲 清 紀

◎ 男鹿地区消防一部事務組合議会議員

船 木 正 博

吉田直儀議員が逝去



吉田直儀議員（享年74歳）が病氣療養中のところ、昨年12月1日逝去されました。吉田議員は、平成18年に初当選し、以来、2期7余

年にわたり市政発展に尽力されました。この間、議会広報特別委員長、消防一部事務組合議会議長など、多くの要職を歴任されました。また、昭和63年から平成8年までは、若美町長として住民福祉の向上に努めました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

平成26年3月定例会日程（予定）

月	日	曜日	会議名	主な内容
2	25	火	本 会 議	市長提出議案上程(提案理由の説明)・教育目標の説明
	27	木		一般質問
	28	金		一般質問
3	3	月		議案質疑、常任委員会付託、予算特別委員会付託
	4	火	予算特別委員会	付託議案の審査・分科会設置
	5	水		
	6	木	常任委員会・分科会	付託議案等の審査・現地調査
	7	金		(総務委員会・教育厚生委員会・産業建設委員会)
10	月			
13	木	予算特別委員会	各分科会委員長報告、質疑、討論、表決	
		議会運営委員会	最終日の運営について	
			本 会 議	各委員長報告(総務・教育厚生・産業建設・予算特別) 質疑、討論、表決

編集後記

▼12月定例会開催が迫った12月1日、本議会の最年長議員である吉田直儀議員の訃報が飛び込んできた。急病での逝去である。旧若美町長の経験から、市町合併後の新男鹿市でも市政発展にご尽力されました。ここに、氏の長年のご功績に対し敬意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

▼男鹿の冬の風物詩である季節ハタハタ漁が低調のまま終わった。特に、男鹿北部では漁獲枠の6割程度に留まり、漁師からは口々に悲痛な声が上がった。中には高齢や不漁のため、引退を口にする方もいる。市としても不漁における様々な原因を精査し、文字通り、男鹿の神魚でもある「鱒」漁の盛返しを図る必要がある。▼今年には国民文化祭が秋田県で開催される(男鹿市では3事業が開催予定)。また、秋田県種苗交換会も男鹿市で開催される。県内外、ひいては全国に男鹿を知ってもらえる好機会である。市民一人ひとりの、男鹿ならではの「おもてなし」の心は一番の魅力である。(古仲清紀)